令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 名 称
都立本所工科高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局
副校長＝事務局長、教諭 計2名
- (3) 内部委員
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任 事務局 計7名
- (4) 協議委員
近隣住民代表…小林 俊昭
葛飾区立葛美中学校長…杉田 善明
株式会社ツバサ翼学院代表取締役学院長…芦澤 唯志
金町消防署警水元出張所長…山内 一弘
保護者代表…矢部 日草代

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1回～第3回）

第1回 令和6年6月26日（水）（開催）

出席者 内部委員6名、協議委員2名

- (1) 委員の委嘱及び各委員紹介
- (2) 各分掌より報告
  - ・教務部主任…加藤 宇志
  - ・生活指導部主任…中村 一三
  - ・進路指導部主任…佐竹 正
- (3) 質疑（資料確認書の提出）

第2回 令和6年11月21日（木）（開催）

出席者 内部委員7名、協議委員3名

- (1) 各分掌より報告
  - ・教務部主任…加藤 宇志
  - ・生活指導部主任…中村 一三
  - ・進路指導部主任…佐竹 正
- (2) 学校評価アンケートの実施について
- (3) 質疑（資料確認書の提出）

第3回 令和7年3月14日（金）（開催）

出席者 内部委員6名、協議委員3名

- (1) 各分掌より書面による報告
  - ・教務部主任…加藤 宇志
  - ・生活指導部主任…中村 一三
  - ・進路指導部主任…佐竹 正
- (2) 学校評価アンケート結果報告について
  - ・集計結果書面報告
- (3) 質疑（資料確認書の提出）

(2) 評価委員会（第1回～第2回）

第1回 令和6年11月21日（木）（開催）内部委員2名、評価委員3名
学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和7年3月14日（金）（開催）内部委員2名、評価委員1名
今年度の学校評価アンケートの検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価について

統合型学習支援サービス（Microsoft Office 365）活用したアンケートを実施した。

(1) 学校評価の観点

- ・学校の理解を得られているか・学校の意欲が通じているか・学校への意見や要望を聴取すること

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒	対象： 21人	回収： 16人	回収率：76.19%
・12月 保護者全員	対象： 21人	回収： 3人	回収率：14.29%
・12月 地域・住民	対象： 32人	回収： 23人	回収率：71.88%
・12月 教職員	対象： 16人	回収： 15人	回収率：93.75%

(3) 主な評価項目（生徒・保護者・教職員）

① 本校の学習指導

- Q1 本校は基礎・基本を重視した授業を適切に行っている。
- Q2 本校は「ものづくり」の授業を熱心かつ丁寧に行っている。
- Q3 授業では生徒全員に理解させるよう、丁寧な指導法ができています。
- Q4 本校では補習や補講の取り組みをよく行っている。

② 本校の生活指導

- Q5 本校は生活指導をきめ細やかに行っている。
- Q6 本校の給食は栄養・味覚・費用等全般的によく考えられていることを知っていますか。
- Q7 本校の生徒は社会のルールやきまりをよく守っている。
- Q8 本校の生徒は行事や部活動等をよく頑張っている。

③ 本校の進路指導

- Q9 本校の進路指導では企業体験（インターンシップ）をよくやっている。
- Q10 本校は資格取得や検定合格のための指導をよく行っている。
- Q11 本校は生徒の進路希望実現のための指導をよく行っている。

④ 本校の保健衛生指導等

- Q12 本校の安全や保健衛生教育のための行事等は適切に行われている。
- Q13 本校の防災意識を高めるための防災教育は充実している。
- Q14 本校はスクールカウンセラーによる心や身体の相談体制が充実している。

⑤ その他の項目

- Q15 本校はいじめ防止や体罰防止の取り組みを適切に行っている。
- Q16 本校では生徒が地域と連携した奉仕活動をよく行っている。
- Q17 本校では保護者と連携した教育活動をよく行っている。
- Q18 本校の施設・設備は充実している
- ★ 地域奉仕活動として、生徒が地域清掃をしていることを知っていますか？
- ★ 一般の方々に公開講座を実施していることを知っていますか？
- ★ 文化祭など学校行事を見学したことがありますか？
- ★ 本校は、地域の皆様のニーズに応えていると思いますか？
- ★ 本校で行う学習指導で、特に重点を置いた方が良いことは何でしょうか？
- ★ 本校で行う生活指導で、特に重点を置いた方が良いことは何でしょうか？
- ★ 地域の皆様が本工に一番に期待していることは何ですか？

（★は地域住民の皆様にお答えいただいた内容です。）

(4) 評価方法の検証及び妥当性

アンケートは、案内文に掲載したQRコードをスマートフォンなどで読み取り、結果を集約できるよう Microsoft Forms（以下、Forms）で回答を集約し、令和6年12月上旬に実施した。生徒はホームルーム時などに回答し、保護者については、生徒経由でQRコード付きの案内文と記入用紙を配布し、回答を依頼した。教職員にはメールにて回答を受けた。地域住民の皆様からは、一昨年は学校運営連絡協議会にお集まりいただいた際にその場で書面にて回答依頼をし、32件と全員の回答を得られたが、昨年度は21件、今年度は23件となった。

生徒、保護者、教職員に関してはアンケートの集計を「当てはまる…4点」、「やや当てはまる…3点」、「あまり当てはまらない…2点」、「当てはまらない…1点」として平均点により、傾向を分かりやすくした。つまり、平均点の結果が4.0に近ければ「当てはまる」と評価が高い傾向がわかる。

地域住民に関しては地域との関わりに重点を置いた設問に厳選し、選択肢を充実させ傾向を読み取ろうと試みた。

(5) 評価結果の概要

<生徒>

○全体的な【生徒】の傾向について

・回収率100%であった昨年度と比較し、平均値は3.67から3.71とやや上がったが、回収率は76.19%へと大幅に下がってしまった。ホームルームで回答後、提出までさせる機会を設けるなど、検討を要する。

○質問項目ごとの主な考察

- ・各1名ではあるが、「4当てはまらない」が選択された下記3つの質問には留意が必要な可能性がある。
Q2「本校は「ものづくり」の授業を熱心かつ丁寧に行っている。」
Q3「授業では生徒全員に理解させるよう、丁寧な指導法ができています。」
Q17「本校では保護者と連携した教育活動をよく行っている。」
- ・保護者との連絡・情報共有に関しては、ベネッセ社の「Classi」やリクルート社の「スタディサプリ for TEACHERS」等の情報共有と学習支援を目的としたクラウドサービスなどが活用でき、「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、個別最適化された学び(※2)」を実現する方法も検討に値する。

<保護者>

○全体的な【保護者】の傾向について

・ネット環境が無いなどの環境も考慮し、バックアップの代替手段として紙での回答も受け付けたものの、平均値はやや向上しているが、3件しか回収できず、回収率が34.37%から14.29%へと大幅に下がってしまった。

○質問項目ごとの主な考察

・数値だけを見ればおおむね良好だが、保護者の回答母数が3件しかない状況と、生徒の回答で「4当てはまらない」が選択されたQ17「本校では保護者と連携した教育活動をよく行っている。」にも関連して、ベネッセ社の「Classi」やリクルート社の「スタディサプリ for TEACHERS」等の情報共有と学習支援を目的としたクラウドサービスなど保護者への連絡手段を検討すべきかもしれない。

<教職員>

○全体的な【教職員】の傾向について

- ・昨年より平均値はやや上昇したが、低調な質問として以下4つがある。
Q9「本校の進路指導では企業体験(インターンシップ)をよくやっている。」
Q14「本校はスクールカウンセラーによる心や身体の相談体制が充実している。」
Q17「本校では保護者と連携した教育活動をよく行っている。」
Q18「本校の施設・設備は充実している。」

○質問項目ごとの主な考察

- ・Q9「本校の進路指導では企業体験(インターンシップ)をよくやっている。」であるが、アンケート時点までのインターンシップ実施は中止となっていたため、低い値となっている。
- ・Q14「本校はスクールカウンセラーによる心や身体の相談体制が充実している。」が問題ではないものの、やや低調である。都で導入が決まり、スクールカウンセラーなどに相談希望者をつなぐオンラインアンケートシステム「コンディションレポート」などの活用も検討に値する。
- ・Q17「本校では保護者と連携した教育活動をよく行っている。」が昨年度に引き続き低い。生徒、保護者の回答結果と合わせて低調であり、情報共有と学習支援を目的としたクラウドサービス導入など、保護者との連絡・情報共有手段に工夫が必要な可能性がある。
- ・Q18「本校の施設・設備は充実している。」の低調さに関して、工場棟や電子・機械など各類型の専門教室を有する本校において、何が不足しているのか深掘した調査を要する。

<地域住民の皆様>

○全体的な【地域住民】の傾向について

・一昨年度は学校運営連絡協議会で地域住民の皆様にお集まりいただいた際にその場で記入用紙を配布し、記入のご協力をいただいたため、0件から100%の大幅な回答率の上昇につながっていたが、昨年度に続き減少となった。

○質問項目ごとの主な考察

- ・夏期、冬季に実施の「Q1 地域清掃」は認知度がやや下がった。
- ・「Q2 公開講座」についての「知らない」もやや下がっており、活動広報方法の検討が必要と思われる。
- ・「Q7 本工に期待されていること」として、貧差で「防災教育の拠点として」が最も多かった。

<全体>

○【全体】の傾向について

質問形式の違う地域住民以外で昨年度の各項目の平均と比較すると、↑(上昇) 10項目、→(横這い) 0項目、↓(下降) 11項目と、↓(下降)が増加したが、平均値は微増という結果となった。

○質問項目ごとの主な考察

- ・「Q1 本校は基礎・基本を重視した授業を適切に行っている。」、「Q3 授業では生徒全員に理解させるよう、丁寧な指導法ができています。」、「Q5 本校は生活指導をきめ細やかに行っている。」などの通常授業に関しては例年高めの傾向にある。
- ・「Q17 本校では保護者と連携した教育活動をよく行っている。」がやや低調で今後の課題ではあるが、生徒の意欲を引き出す『面倒見のよい学校！本所工科（※1）』として、「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、個別最適化された学び（※2）」の実現を目指し、家庭や地域との連携を深めながら文化的にも特色ある教育活動に取り組みたいと考えている。

（※1 令和6年度本校パンフレット表紙に掲載のスローガンより）

（※2 2019年12月中央教育審議会 初等中等教育分科会「新しい時代の初等中等教育の在り方 論点取りまとめ」より）

(6) 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- ・今年度は、保護者の学校評価アンケート回収率が低かったことから、周知の方法や時期などを工夫したいと考える。
- ・地域と連携した防災訓練の実施などに取り組み、地域から頼られる学校を目指す。
- ・学校行事や授業風景のPRに努めたいと考える。そのためにも、様々な手段を用いて、広報活動に取り組む。

(7) 質問項目の検討

生徒および保護者への質問については、学校全体としての質問なのか、個人としてなのかを明確に周知した上で回答させる必要がある。

（平成30年度以降は「ライフワーク・バランスの推進」に関する評価項目についても設定すること。）

4 協議委員アンケートについて（5名中4名回答）

○「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

協議委員人数 5人のうち回収枚数…4枚

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
1	1	1			1	

5 次年度への課題

(1) PR方法の改善と充実

保護者・地域に対して、授業や学校行事の紹介や教育活動のPR方法を検討する。(HP・X(旧Twitter))

(2) 学校評価アンケートの改善

保護者の回収率が上がる工夫を検討する。